

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500645		
法人名	有限会社 飛翔会		
事業所名	グループホームゆず		
所在地	岐阜県各務原市那加長塚町1-155		
自己評価作成日	平成21年7月1日	評価結果市町村受理日	平成21年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

既存の日本家屋を利用したグループホームです、定員も8名と少人数で入居者の方への心理的、物理的な圧迫感を取り除くよう配慮しています。職員も開設年度から就業している者がほとんどで入居者との信頼関係を築いています。建物はバリアフリーにはなっていません、しかし日常的な動作を継続的に維持することが身体機能の衰えを防止することになると考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がかって住んでいたような古民家のホームである。建物はバリアフリーになってはいないが、日常的な動作が機能訓練に繋がっている。地域の自治会はもとより利用者の住んでいた自治会とのかかわりも大切にしている。玄関は日中開放され、近所の方が気楽に訪問したり、利用者も自由に外へ出られる。一人で散歩に出た利用者の連絡をもらえる関係も築いている。既存の物を使用しているため家賃が抑えられ、利用料が低く、職員も開設当初の人が多く利用者、家族と信頼関係を持っている。利用者のほとんどが入居前のかかりつけ医に受診し、可能な限り今までと同じような普通の暮らしが出来るよう支援している。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2170500645&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年8月24日

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしてのホームの役割を理解し全職員が理念の共有しています。	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を理解し、地域との繋がりやかかわりを大切にしている。職員会議で理念の振り返りと確認をし合い、地域の中でその人らしく普通に暮らし続けることを支えるケアに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入しています、また日常においても気軽に交流を交わっています。	地域の一員として溝掃除や公園の草取りを利用者で行なっている。また、近隣の方から認知症介護の相談も受けている。地域の盆踊り、ちょうちん祭り、尺八演奏会、公民館に遊びに行くなど日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターで月に1度開催される地域ケア会議に参加し地域の方と認知症について話し合いをしています、また近隣に住む認知症のご家族と暮らしておられる方のご相談をお受けすることもあります。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催話し合いの場となっております、助言を頂いたり、ご家族や近隣の方へホーム近況を報告しています。	中断していた運営推進会議の重要性を踏まえて定期的開催するようになった。会議では、ホームの状況や近隣との関わりを報告し、困難事例の相談や身よりのない利用者への助言などサービスに活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム運営において不安な点等は市の窓口を訪ね助言や指導を頂いています。	入居時の問題や分からないことは、市町村窓口で相談して解決方法や指導を受けている。ホームの現状や取り組みを報告しながら、市町村担当者と協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての意識を全職員が持ちケアに取り組んでいます、また日中は玄関の施錠をせず自由に庭に出られることができます、ただし危険回避のため一時的に施錠することもあります。	管理者と職員は、身体拘束の弊害を認識し、利用者の自由な暮らしを支援している。日中は、玄関の扉は開けたままで利用者は、自由に外出することが出来る。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なトイレ誘導や適度な運動、排便を促す飲食物の摂取に配慮しています、また自然排便が困難な方にはかかりつけ医の指示に従い服薬等で管理しています。		

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象入居者はありませんが生活支援員の訪問や司法書士と連携して入居者に後見人の設定をおこなったり権利擁護について取り組んでいます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり書面と口頭によりご説明を行い契約書を2部作成し双方が1分ずつ保管します。改定事項等が発生した場合は迅速に郵送により文書を送付した後電話等にて説明をしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や個別にお話をする時間を設けています、また家族の方から管理者へ気軽に電話が出来る関係を築いています。	訪問時に個別に話をする機会や訪問のない家族には、管理者が毎月自宅に行き、家族の意見を引き出す取り組みはある。しかし、利用者、家族からの意見や要望、苦情、相談がなく運営に反映するまでに至っていない。	利用者、家族から意見や要望を引き出す機会とともに、出された意見や要望、苦情を日々のサービスに活かしていくことが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や個別に意見要望を聞き運営に反映しています。	職員は、職員会議や日々の仕事の中で、提案、要望、気づきを伝えている。管理者は、職員の要望で2台目の洗濯機を購入し、洗濯物を分けて洗うことが出来るなど運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が勤務に入っていることもあり職員の勤務状況、個々の考え方の把握をしやすい状態にあると思います。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特定のプランはありませんが職員会議の折に勉強会を催したり外部の研修、会議に参加しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加盟しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される方の不安を早期に取り除くためご本人の生活歴、趣味、嗜好など把握に努めます、また入居当初はご家族との連携をより密にし安心して生活できるよう図っています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討される段階では直接もしくはお電話で何度もお話をうかがいます、また入居当初は毎日の様子をお電話でお知らせしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずご本人が当ホームで日常生活活動が可能か判断します(施設内移動等)、その後ご家族の要望をお聞きし当ホームで対応が可能であれば入居へむけたお話を、対応が難しい場合は他サービスの紹介をしています		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員がなじみの関係で生活するため最大8名の定員とし、自立の御手伝いをしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的な問題や突発的な出来事等、ホームの判断だけではなく、ご家族に連絡し一緒に考える体制を築いています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状など季節の便りや、遺族会への参加、地元自治会行事への参加の援助、また来客時には居室でくつろいで面会していたなど配慮をしています。	住んでいた所の自治会行事や遺族会への参加、馴染みの人と毎月出かけるお寺参り、馴染みの居酒屋などに行っている。また、昔の友達と居室でお茶を楽しむなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士関わり合う場面を設定したり、状況によっては距離をとったり、一人ひとりの状況を把握し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状が改善し退居された方が遊びに訪れたり、すべてのご家族ではありませんが退居後も季節の便りを交わしたりと交流が続いています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事時間の変更には日常的に対応していません、また見守りのみで入浴可能な方には就寝前に入っていたり自宅での生活の再現に努めています。	職員は、日々の寄り添うケアと会話を沢山することで思いや意向の把握に努めている。また、困難な場合は、生活歴からその人をよく知り、声かけ、五感を働かせて思いを汲み取るよう支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス事業者より情報提供を頂いたり、ご本人を始めご家族より生活歴等の聞き取り、またご自宅へ訪問し居室を拝見する等入居者の方の生活を把握するよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	すべての職員が入居者個人の一日のリズムを把握しています、また毎日定時に検温、血圧測定を行い身体状況の変化に気を配っています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームは本人、ご家族を始め、入居者の地元民生委員、かかりつけ医師等各関係者と気軽に話を出来る関係にあり介護計画の作成に役立てています。	本人や家族の思いや意向を聞き、ケア会議で一人ひとりの評価と意見交換をして介護計画を作成している。また、住んでいた所の民生委員の話やかかりつけ医の意見なども介護計画に反映させ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇日誌を作成し介護計画の実践を確認しています、また職員間の情報の共有は業務日誌にて行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ日常生活でのニーズ以外にも可能な限りお応えしています。		

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者がお1人で散歩に出られたりする場合などご近所の方から「見かけたよ」等お電話を頂戴したり、職員の目の届かない場面等でお力をお借りしています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の不安感、不信感を取り除き安心して受診が出来るため、可能な限り長年利用されている医療機関で受診できるようお手伝いしています。	ほとんどの利用者が、入居前からのかかりつけ医に受診している。受診には、家族や職員が付き添い、かかりつけ医とホームが情報を共有しながら、本人の希望に沿った医療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師は勤務していません。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供、ソーシャルワーカーと協議し退院後のケア、居室の確保等安心して入院できるよう整備しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医等と十分協議しホームでの継続ケア、もしくは入院の見極めを行っています。	入居時にホームの力量や体制を説明している。状況変化に応じて、利用者や家族、職員、かかりつけ医と相談しながら、現状でどこまで出来るのか、ホームの対応方針の共有を図っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が同程度の技術を持つには至っていません。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を不定期に行っています、また被災時には避難場所の確保をしています。	年に一回、利用者とともに避難訓練を行っている。避難場所や非常時の備蓄は確保しているが、地域住民との協力体制を築くまでに至っていない。	職員だけの誘導の限界を踏まえ、自治会・地域住民・警察・消防署と連携を図り、理解を深め協力体制を築いていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務日誌や処遇日誌等は目につかない場所で保管しています、声かけにおいても入居者が年長者であることを明確に表現し気分を害されないよう配慮しています。	馴れ合いの関係の中で年長者としての敬意を払い名前も姓で「さん」づけで呼び、言葉づかいや対応に気を付けている。また、職員会議で日々の業務を振り返り、利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアの確認をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思ったことを声にしやすいように普段から信頼関係築くよう配慮しています、また表情や行動から思いを推測できるように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者さんペースで生活されています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へ出かけた方には支援を、また職員が髪染めのお手伝いをしたり、整髪料や衣類を一緒に購入しに出かけたり利用者の嗜好に配慮しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や性格を把握した上で配膳や調理をお願いしています。	カレーやてんぷらを作ることの好きな男性利用者もあり、買い物・調理・盛り付け・後片付けなど個々の力を活かしながら、職員と一緒にしている。その日の出来事や食材の話しながら、楽しく食事が出来るよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や食事量を観察しています、また個人の嚙む力や、飲み込み、むせ等に考慮した飲食物の提供をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で可能な範囲は行っていただいています、介助が必要な場面は職員がお手伝いします。また月に一度程の割合で希望者は歯科検診を受けることができます。		

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンの把握に努めトイレへの誘導を行っています、またポータブル使用を希望される方にはプライバシーの確保や衛生を保てるよう配慮しています。	トイレでの排泄が出来るよう個々の排泄パターンの把握に努めている。自立に向けて、かかりつけ医に相談し薬で改善した事例もある。プライバシーの配慮や安全面からトイレの窓なども整備して、自立にむけた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導や適当な運動、排便を促す飲食物の摂取に配慮しています、また自然排便が困難な方にはかかりつけ医の指示に従い服薬等で管理しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助の必要な方は概ねの入浴時間が決まりがちですが見守り状態でご自分で入る事の出来る方は就寝前に入浴するなど個々の状態に合わせた対応をしています。	就寝前に入浴する利用者もあり、毎日入浴することも出来る。入浴を拒む人には、職員が役者になって演技をし、言葉掛けや対応を工夫しながら、一人ひとりの希望にそった個別の支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はプライベートが確保されています、共有スペースと個人スペースの使い分けをして寛ぎや睡眠に配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり名前の明記された薬箱を用い誤飲防止に努めています、また薬箱には薬情報が貼付してあり、副作用が一目でわかるようになっています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や畑仕事、カラオケや外出等、飲酒や喫煙といった当たり前の日常生活が送れるよう可能な限り支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物で日常的に外出される方や、家族やなじみの方へ働きかけをし小旅行をされる方もおられます、しかしながらすべての入居者の方がそうではありません。	公園や神社への散歩、買い物など希望にそって出かけている。一人で散歩に出かける人もいる。また、家族や兄弟と一泊旅行、墓参りに出かけたたり、馴染みの友達とお参り旅行など、家族や地域の方と協力をしながら出かけられるよう支援している。	

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人によっては金銭をご自分で管理されています、ホームに管理を委ねられる場合は出納帳と領収書により金銭の出入りをご家族にご報告しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要求に応じて、季節の便りを出すお手伝いをしたり、電話の利用をいただいています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節ごとの飾りを施しています。脱衣所やトイレも安全を確保した上ブライバシーに配慮しています。	古民家をそのまま利用し、共有空間は利用者にとって安心感がある。居間には利用者の希望で神棚もあり、心地よい風も通り生活感がある。季節ごとに利用者の登場する壁面飾りを作り、季節感を取り入れる工夫もしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁側でくつろいだり、気に入った場所でテレビを観たり、畑や花壇の手入れをしたり共有空間においても個々の活動や交流が出来るよう配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を出来る限り持ち込んでいただき使い慣れたものや大切なものをそばに置いて少しでも落ち着いた空間を作ってもらえるよう心がけています。	自宅の再現が出来るよう家族と協力しながら、テレビ・位牌・コタツ・家族の写真など馴染みのものや使い慣れたものを活かして、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段には両側手すり、危険個所のガラスはアクリル板へ交換するなど配慮しています。		